

区長と話そう、聞いてみよう すぎなミーティング

テーマ 東京2020オリンピック パラリンピックのレガシーについて

～わたしたちができるボランティア～

平成30年9月1日(土) 於:永福体育館

区では、区政に関して、日頃発言する機会の少ない区民の方々の声を、幅広く受け止めていく取組として「すぎなミーティング」を実施しています。今回は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という）に向けたボランティア活動についての話し合いを行いました。

◇ 区長から オリンピック・パラリンピックのレガシー（遺産）とは？

今日のテーマは、東京2020大会を盛り上げるため、区民のできるボランティアについて、皆さんと意見の交換をしたいと思います。

●ボランティアも大会参加の一つ

東京2020大会の開催まで2年を切ったところです。世界で最も大きなイベントを成功させたいという思いは皆さん一致しているところであると思います。これだけの大きな大会を成功に導いていくためには多くの方々の参加や協力が必要です。



その参加方法の一つとしてボランティアを挙げることができます。大会組織委員会や東京都の考えるボランティアとして、参加選手を助ける大会ボランティアや来訪者に都市観光の案内をする都市ボランティアなどが掲げられていますが、杉並区も独自にボランティアを考えているところです。

●ボランティア活動をレガシーに

歴史的に見ると、オリンピック・パラリンピックがその国や都市に及ぼす影響というのは、ものすごく大きいものがあります。大会を機に競技場の建設や道路などの街づくりが行われます。これらは大会が終わっ

ても資産として永く利用されるものでオリンピック・パラリンピックのレガシーと言えるでしょう。では、それ以外にレガシーとしてどのようなものを考えることができるでしょうか。

私はボランティア活動も、そのやり方や効果によってオリンピック・パラリンピックのレガシーになると考えます。例えば、大会を機に東京を訪れる国内外の交流自治体の住民を、区民がホームステイ・ホームビジットでもてなし、これを区が支援していく。

このような活動が大会を機に地域に定着していけば、これまで自治体主導であった交流が住民同士で築かれていくことになります。これこそレガシーというにふさわしいものであると思います。



●ボランティアについて皆さんのアイデアを

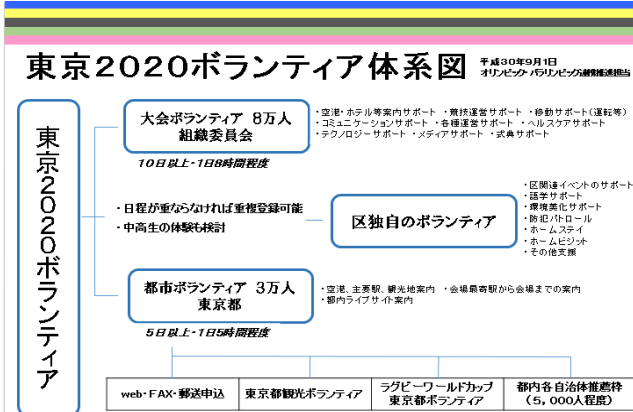
今日の懇談会の会場は、本日オープンした公式のビーチバレー競技場を備える永福体育館です。区では現在、この施設にオリンピックチームの合宿などの誘致ができないか動いているところです。今日はこれからオリンピックとの関連が生まれていく施設で、区独自のボランティアについて、活動にはどのような支援や環境づくりが必要か。また、どんなボランティアが求められるか、皆さんから様々なアイデアをいただければと思います。

◇ 区独自のボランティアで大会を盛り上げていきたい。

連携推進担当課長

●大会ボランティアと都市ボランティア

東京2020大会のボランティアの枠組みから説明したいと思います。大きく分けて大会組織委員会が募集する大会ボランティアと東京都が募集する都市ボランティアがあります。



まず大会ボランティア、これは競技運営とか式典のサポートを目的として大会組織委員会が全国から募集するものです。1日8時間程度で10日以上従事できる人を対象に、8万人規模の募集を予定しています。

もう一つが都市ボランティア、これは主要駅や観光地の案内、会場までの案内を内容とするもので、1日5時間程度、5日以上従事できる人で、3万人規模の募集予定です。このうち、約1万人は東京都観光ボランティア、ラグビーワールドカップボランティアを務めた方、都内各自治体から推薦された(各区150人程度)方々から構成されます。

●区独自のボランティアが必要

大会ボランティアについては、計10日間従事することが必要で募集要件が厳しすぎるという声が上がっています。また、都市ボランティアについても、案内場所は東京の東部に集中していて、杉並区を案内するものではありません。

そこで、東京2020大会を機に「杉並のまちなかの良さ」をアピールし、それを杉並のレガシーに繋げていくには、やはり区で独自のボランティアを募集する必要があると思っています。

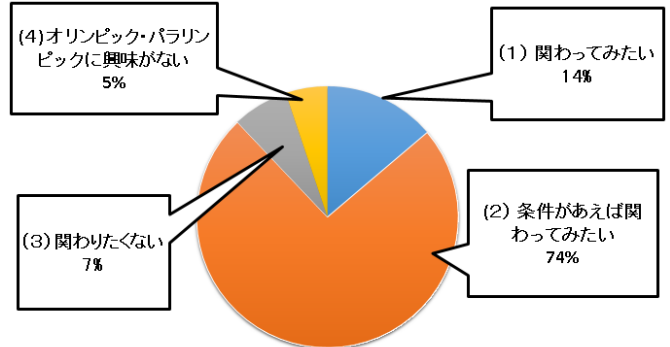


●どのようなボランティアが考えられるか

今、区で考えているボランティアとしては、杉並区を聖火リレーが通過するときの手伝いとか、環境美化、防犯パトロール、観光案内などを区のボランティアとして認定していこうと思っています。また、東京2020大会を機に、東京を訪れる国内外の交流自治体の住民を、区民がもてなすホームステイ・ホームビジットのボランティアもこれに入ります。その他、どのようなボランティアが必要かということをお皆さんと一緒に考えたいと思っています。

●条件が合えば、ボランティア活動をしたい

問3 東京2020オリンピック・パラリンピックでボランティアに関わってみたいと思いますか。



皆さんとの懇談会に先立って、区民のボランティアに関する意識を調査しました。今回、すぎなミーティングのお知らせ通知とともに行ったアンケートでは「オリンピック・パラリンピックのボランティアに関わってみたい」という人は、条件が合えばという人を入れると回答者61人のうち54人(88%)に及びました。

また、平成29年度の区民意向調査では、ボランティア経験のある人は4人に1人。経験はないが活動してみたい人を入れると2人に1人、実に50%の人がボランティア活動に前向きな回答をしています。

環境さえ整えば「東京2020大会」に協力してくれる区民はたくさんいると言えるでしょう。

そこで、区の独自のボランティアについて、皆さんのアイデアを取り入れながら、この潜在的な区民の力を「東京2020大会」に活かしていきたいというのが私たちの思いです。

◇ グループトーク ボランティアをしてみたいと思えるには、どんな条件が必要？

団体でも登録できる

何か特典を設ける
(選手との交流?)

ネットでも参加できる。

誰でもできる

土日・祝日限定のボ
ランティアでもいい

道案内など地元で手軽にできる

家族で子供と一緒に
参加できれば

もっと区民への宣伝
が必要



◇ グループトーク こんなボランティアがあったら、是非参加したい。

○ゴミ袋配りの美化ボランティア

○区内イベントのボランティア

○試合観戦ガイドボランティア

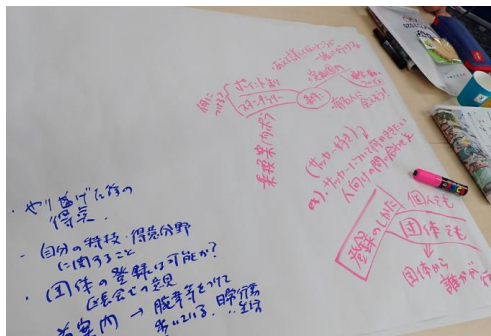
○大会後の選手との交流会の手伝い

○パブリックビューイングの手伝い



○乗り換え案内ボランティア

○写真撮影の手伝い



○荷物運びボランティア



○杉並めぐりボランティア

○ボランティアによる吹奏楽コン
サート

○着物の着付けサービス



◇ 佐藤 直氏からひとこと 東京オリンピック 聖火リレーボランティアを経験して

先の東京オリンピックの聖火ランナー（ボランティア）を務められた佐藤氏から、その経験を通じて感じたことや、ボランティアについての考えをお話いただきました。

●ボランティア活動の思い出



東京オリンピックの聖火ランナーといっても50何年前のことで、私自身が希望したのではなく学校の先生から強引に指名されたのがきっかけでした。

そのため、聖火ランナーの記憶というと、練習がとても苦しかったことが、主な記憶として残っています。

このように、私のボランティアの始まりは仕方なくという感じでした。自発的なボランティアとしては後年、趣味で旧東海道を歩いたときに、道路のゴミが多いのに気づき、美化を訴え「ポイ捨て禁止」のゼッケンをつけて歩いたことだったかなと思います。

月に一度、一泊二日のペースで20日間、日本橋から京都まで500キロを歩くのは大変でしたが、新聞

にも大きく取り上げられ道路の美化に貢献できたのではないかと考えています。

●ボランティア活動を通じて気付いたこと

またこの経験で一番強く思ったのは次のことでした。旧東海道とはいっても今はかなり整備されています。地元の商工会議所とか、まちの青年部が力を入れて石畳の旧街道を作るなど整備しているのです。

このような地元のボランティア活動に支えられているからこそ、私も昔の旅の雰囲気味わいながらボランティア活動ができるのだと気づきました。

誰かを支えるボランティア活動は、自分もまた支えられているということに気付く良い機会であったと思います。この経験をもとに、今は「東京2020大会」に際して、何か役に立てたらいいなと思っているところです。

誰かを支えるボランティア活動は、自分もまた支えられているということに気付く良い機会であったと思います。この経験をもとに、今は「東京2020大会」に際して、何か役に立てたらいいなと思っているところです。



◇ 全体トーク みんなのアイデアを持ち寄ろう

●Aさん「スポーツ体験教室」

ビーチバレーチームの誘致という話もあったので競技の終わった選手たちが帰国するまで間に「スポーツ教室」など企画して、それに携わるボランティアを募ったらいかがでしょうか。直接、トップ選手と交流できるし、人気のボランティアになると思います。

●Bさん「盛り上げる吹奏楽・イベント」

東京2020大会をイベントとして盛り上げる吹奏楽・バンドです。楽器を持っていたり、演奏のできる人はたくさんいるのでは。ボランティアのみんなで演奏して大会を盛り上げることができるのではないのでしょうか。

●Cさん「音楽イベントのボランティア」を

公式競技が行われない杉並区でも、大会期間中にボランティアによる音楽イベントとか、いろんなことができると思います。いろんな場所に移動することで、

そのイベントに遭遇する楽しみもあります。また、お祭のように賑やかであることから区への集客力が高まるのではないのでしょうか。



●Dさん「家族で参加できるボランティア」を

私は参加方法に工夫を凝らすことが必要ではないかと考えました。年少の子どもがいる家族では、夫婦やどちらか一方でボランティアに参加するのは難しい場合があります。そこで、子どもも一緒に家族で参加できるものを考えたらいかがでしょうか。子どもも良い思い出づくりができると思います。

●Eさん「お祭」イベントを

杉並では公式競技が開催されないことを考えると、高円寺の阿波踊りなど、有名なお祭もあるので、是非、ジョイントして、東京2020大会を盛り上げては行かないでしょうか。町会のお祭りを6年間やった経験からして、地域の振興や区民の交流には「お祭」が一番です。

●Fさん「心の中にレガシー」を

オリンピック・パラリンピックのレガシー「遺産」というのが今日のテーマであったと思います。私は「心の中にレガシー」を残すことが重要ではないかと思いました。仕事、子育てで中々参加できない20代、30代の人にも巻き込むようなボランティアが必要で、そのためには家族で参加できるボランティアを設けたら行かないでしょうか。家族の思い出にもなるし一石二鳥だと思います。



●Gさん「すぎなみ巡りボランティア」を

手軽に簡単に誰でも参加できるというボランティアを考えました。いろいろあると思うのですが、自分の好きな地域だけでも良いという条件で観光案内のボランティアを募集してはどうか。

●Hさん「区民広報ボランティア」を

せっかくイベントがあっても、みんなに知ってもらわないと意味がないことから、情報発信のボランティアというのを考えました。例えば「パブリックビューイング」があるからみんなおいで。というような情報をSNSや紙ベース、口コミで、自分のできる時間で発信していく。そういうボランティアがあってもいいと思いました。

●Iさん「移動サービスのボランティア」を

自分の空き時間と自家用車を使って、他人の移動を手伝うボランティアはどうだろうか？杉並は区内の至るところに素敵な場所があると聞きました。またアメリカではウーバーなどの乗り合いのサービスが流行っています。治安のいい日本なら便利な制度として普及するのではないかと思います。

●Jさん「ゴミ袋を配る 美化ボランティア」

区内で行われるオリンピック・パラリンピックの競技はないものの、その期間中阿波踊りや七夕祭などたくさんの方が訪れると思います。外国の方の話ではゴミを捨てる場所がなく困っているということを知りました。会場でゴミ袋を配るボランティアなどいかがでしょうか。手軽な作業だし、街の美化にもなるいいボランティアだと思うのですが。

●Kさん「バスの乗り換え案内ボランティア」

鉄道の駅で乗り換え案内など需要のあるものと思いますが、杉並では南北の移動についてバスの利用を案内できれば効率よく区内を見て回ることができるのではないのでしょうか。そこで、バスの乗り換え案内のボランティアなどどうでしょう。

●Lさん「試合観戦ボランティア」

せっかくボランティアをするのなら、好きなことでみんなに貢献できればと思いました。サッカーが好きで、高校でもサッカーをしていることから日本を訪れた方とサッカーをしたり、試合の観戦ガイドをする。たくさんのボランティアがいると思います。

●区長 団体でボランティア登録できるようにする

家族単位で参加するボランティアを提案した方がいらっやったと思います。私も、団体でボランティア登録ができればいいのではないかと思います。なぜなら、知り合いと一緒に活動できれば、より気軽に参加できるようになるのではないかと思います。

また、野球チームとかサッカーチーム、町会単位で登録して、選手やオリンピック・パラリンピックを見に来る人を接待する。選手との交流会などもできれば、楽しみも増えるのではないのでしょうか。



◇ 区長から みなさんのアイデアの実現にむけて

●地域で自然と発生したボランティア

今日は、皆さんからとても前向きなアイデアをたくさんいただいて、楽しい時間を過ごせました。阿波踊りや七夕祭りの会場で、ゴミ袋を配るボランティアを提案してくれた方がいます。優れた着眼点であると思います。

実際、区内で行われる大きなイベントで問題になるのは警備とゴミです。高円寺の阿波踊りを例にとると、2日間で100万人、ゴミの量だけで大変なものです。高円寺の場合は、地元の小学生がゴミ拾いのボランティアをしてくれています。このように街の人たちが自然と手伝いをしてくれる。自分たちのイベントを事故なくやり遂げようという思いや責任感が高円寺阿波踊りを支え、手伝いに来ていた本家の徳島の人たちも、

高円寺のやり方を学んで帰るようになっていきます。

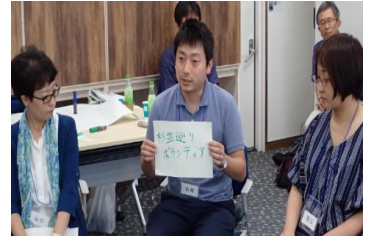
●皆さんのアイデアを具体的なものに

また、今年行われたサッカーのワールドカップでも日本人サポーターのゴミ拾いは話題になりましたね。試合の勝ち負けも大事だけれど、それ以上に日本の価値を上げていくのではないのでしょうか。

だからボランティアというのは、イベントや地域の大事な顔になると思います。今日いただいたアイデアを具体的に実現できるよう、頑張っていきたいと思います。



◇ 今日のミーティングを振り返って



☆様々な形でボランティアに参加したいと思っている人がいて心強く思いました。

☆区の意見も聞けたし、日頃、話したことのない方々と話しができて楽しかった。

☆自分のできることをやればいいという形のボランティアが実現できれば、ボランティアに関するハードルが低くなる気がします。

☆東京オリンピックの聖火ランナー佐藤さんの話が印象に残りました。ボランティアをするという気持ちではなく、目の前のことをこなして、それが、自然とボランティア活動つながっていくということが大事ですね。

オリンピックを、杉並を盛り上げる。何か自分にもできることでお手伝いをしたいと思いました。

☆区のボランティアの位置づけが良く分かった。

☆緊張したけれど、とても話しやすいミーティングでした。区長の話が聞けて良かった。

☆思ったよりフレンドリーな会で、話しやすかった。

☆機会があればまた参加してみたいです。



平成30年度第1回 すぎなミーティング報告書



今回の懇談会は16歳以上から50歳までの無作為抽出の区民1500名に通知し、参加希望者26名のうち11名に参加いただきました。

編集後記

初対面の方同士、緊張することもあったと思いますが、活発にご意見をいただきありがとうございました。この報告書は出席者の方の意見と区長からの回答を抜粋して編集させていただきました。いただいたご意見を、今後の取組に活かしてまいります。

～区政を話し合う会報告書～平成30年12月 編集・発行 杉並区総務部区政相談課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号

電話3312-2111